

## 開発と環境：日本とアジア諸国の経験

Development and the Environment :  
the Experiences of Japan and Asian Countries

教授 藤崎 成昭  
Professor  
Shigeaki Fujisaki



“Development and the environment” are the primary focus of our laboratory. We investigate and analyze environmental issues faced by developing countries, keeping in mind the underlying North-South Conflicts regarding environmental issues. In 2011, four of the members conducted their research on “Environment and Energy Related Issues and Policies” in Malaysia. From the 12<sup>th</sup> to the 14<sup>th</sup> of September, the laboratory, supported by the Graduate School of Environmental Studies and the International Post-Graduate Program in Human Security, organized a Summer School on human security. The main theme of the summer school was the theory and the practice of human security, each day focused on a specific topic: the first day on climate change, the second day on human security theory, and the last day on migration issues. The main lecturer for the whole set of lectures was Des Gasper: Professor of Human Development, Development Ethics and Public Policy, at the International Institute of Social Studies of Erasmus University Rotterdam (ISS-EUR), The Netherlands.

### 地球環境問題と転機の南北関係

10月30日から11月19日にかけてマレーシアで現地調査を実施した。今回の調査では、発展途上国であるマレーシアが気候変動問題に関しても積極的な貢献をするという姿勢を明確化していることを確認できた。炭素排出の「GDP排出原単位で40%削減」を宣言した2009年12月17日のCOP15での演説でナジブ首相は次のように述べたという。「私は、気候変動とそれから生じる大変動の諸結果が確かに現実のものであることに今や何の疑いを持たないマレーシア国民の声を皆さんにお届けしましょう。気候変動に対処するために、この先続く長い道のりに我々が見ることになるだろう多くの問題や困難にも拘わらず、マレーシアは喜んでこの全世界的な努力に貢献するものです(第10次マレーシア計画298頁)」。かつてこの国が中国と共に南の先頭に立って「開発の権利(right to develop)」を、そして特に気候変動問題に関する「先進国責任論」を強硬に主張していたことを

知る者にとってはまさに隔世の感である。1992年にリオデジャネイロで開催された国連開発と環境会議を前に、発展途上国は二つの会議を開きその結束を図っている。1991年6月の北京会議、そしてリオ会議直前の92年4月のクアラルンプール会議である。ここでは後者から当時の南の主張を復習しておこう。「クアラルンプール宣言」では、その第3条で「我々は、環境の悪化について先進国が主たる責任を有した途上国が持続可能な経済成長と開発を必要としているとの認識」を示し、第4条では「開発は、万人及びあらゆる国が有する基本的な権利である」と主張する。そして同宣言の具体的な要求の一つが、「ガバナンスの観点から途上国と先進国の公平なバランス可能となる、透明性があり民主的な新たな基金の設立」であった。既にリオの会議から20年の歳月が過ぎようとしている。南が求めた例えば「新たな基金」は遂に出来なかった。しかし、マレーシア自身が既に「全世界の努力に貢献する」姿勢を明らかにしている。南北関係の転機と捉えるべきであろう。



At the Human Security Summer School



Dr. Des Gasper

### 研究活動と社会への貢献

- 1) 上智大学地球環境研究所の「地球環境学」講座(輪講)に出講した(1月20日)。
- 2) 九州大学東アジア環境研究機構の「東アジア環境概論」に出講した(2月15日)。
- 3) 「人間の安全保障教育研究コンソーシアム」世話人会及び「日本人間の安全保障学会」第1回大会に参加した(9月17日～19日)。
- 4) 環境・エネルギー政策をテーマにマレーシアにおいて現地調査を実施し、同国の主要な大学、研究機関、政府機関を訪問した(10月30日～12日)。
- 5) マレーシア国民大学(Universiti Kebangsaan Malaysia)の招きで The Faculty of Social Science and Humanities にて “Institutional Approach to the Environmental Issues – A Way of Environmental Studies” と題する講演を行った(11月1日)。
- 6) 財団法人 国際開発高等研究機構(FASID) の「国際機関向け人材発掘・育成研修コース」に出講した(11月16日)。
- 7) アジア経済研究所の雑誌「アジア研ワールドトレンド」12月号に「エネルギー・環境政策と転機の南北関係—マレーシアからの報告」と題する論文を発表した。

### 教育活動

- 1) 地域環境・社会システム学コース、ヒューマンセキュリティ連携国際プログラム、環境フロンティア国際プログラムの教育に携わっている。
- 2) ヒューマンセキュリティ連携国際プログラムでは2008年



At the Malaysia Palm Oil Board

- 10月よりインドネシア政府及びブラウウィジャヤ大学(東ジャワ州マラン市)と協定を結びリンケージプログラムを実施しており、同年10月より毎年学生(M)1名を受け入れている。2011年には9月に第3期生が修了し、10月より第4期生が学んでいる。2011年1月にインドで開催される国際学会(The 13th Biennial Conference of the International Association for the Study of the Commons)で、第1期生が修士論文を基にして執筆した論文を発表した。
- 3) ヒューマンセキュリティ連携国際プログラムの活動の一環で、オランダの Erasmus University Rotterdam の Institute of Social Sciences (ISS) から Dr. Des Gasper を招待し、3日連続の特別講義を「人間の安全保障サマースクール」として実施した(9月12日～14日)。
- 4) 環境フロンティア国際プログラムの学生2名及び地域環境・社会システム学コースの学生1名を現地調査のためマレーシアへ派遣した(受入先: マラヤ大学、マレーシア国民大学、等、期間: 10月30日～11月19日)。

### GCOE への参加

生命科学研究所が2008年度からスタートさせたグローバルCOE「環境激変への生態系適応に向けた教育研究」に実施担当者として参加し、主として「生態環境人材育成プログラム」の環境学実践マネジメント講座「環境マネジメント概論」の講義を主催している。



At the Universiti Kebangsaan Malaysia